

ロキサデュスタットの相互作用薬剤による影響

医療法人衆和会 長崎腎病院

○渡部さゆり 江藤りか 小嶺真耶 矢野未来 増田直子 澤瀬健次 舩越哲

【目的】

ロキサデュスタットはリン結合性ポリマー、多価陽イオンを有する経口薬剤との併用により作用が減弱するおそれがあり、併用注意となっている。そこで当院でのロキサデュスタット服用患者における上記薬剤の併用による影響を比較した。

【方法】

当院維持透析患者のロキサデュスタット服用患者のうち、リン結合性ポリマー、多価陽イオンを有する経口薬剤をロキサデュスタットの服用前後 1 時間以内に処方されている患者(31 名)と処方されていない患者(28 名)でロキサデュスタットの投与量と Hb 値を比較した。

【結果】

研究開始後 16 週の時点におけるロキサデュスタットの投与量は併用あり群で 83.2 ± 29.9 mg/回、併用なし群で $87.9 \text{mg} \pm 25.2$ /回で有意な差はなかった。Hb 値は併用あり群で 10.1 ± 1.2 g/dL 併用なし群で 10.4 ± 0.9 g/dL で有意差はなかった。

【考察】

ロキサデュスタットの処方に際しては、服薬アドヒアランスを重視した処方も可能であることが示唆された。